神戸百店会だより

★穴門筋にサンピアポーチ登場！

サンピアポーチ

元町駅南、元町穴門商店街（関一雄会長・46店）が同商店街入口に建築中だった穴門筋の新しい〝顔〟、標識灯の「サンピアポーチ」が2月21日完成、完工を祝う式典と点灯式が行なわれた。以前あったアーチが市街地整備のため撤去されたあと、昨年末から準備にかかっていたもので、神戸には珍らしい一本足の街灯。高さも6㍍とたかく、駅前という地の利もあって、元町駅乗降客の誘致に大きな力となることが期待されている。

★播新ご子息ゴールイン貸画廊もオープン！

元町3丁目の美術舗「播新」の太田新次郎社長のご子息、雅勝さんが愛子さんと2月11日オリエンタルホテルで結婚式を挙げられた仲人は関学名誉教授で黒川古文化研究所所長の武藤誠ご夫妻。神戸眼鏡院の鳥越静男、マスヤの近藤常吉、ヒロタの広田定一の各氏が祝辞を贈り、和やかな雰囲気であった。

雅勝・愛子ご夫妻

昨年11月に新店舗をオープンした播新だが、4月に2Fの茶室と貸画廊がオープンする。貸画廊は絵画、書、陶芸、工芸、その他いろいろな展示に利用できる

お問い合せ、お申し込みは
中央区元町通3丁目10－3
☎331－2516

★グルメのためのホテルライフがはじまる

オリエンタルホテルBFに3月5日グルメシティがオープンした。和・洋・中華各国の味を味わえる神戸のナイスポイント。北京料理〈海風飯店〉、オリエンタル〈ステーキハウス〉ふぐ・鯛料理〈元海〉寿司・活伊勢海老料理と鮪〈白扇〉、イタリアンレストラン〈コモ〉日本料理〈石庭〉で本場じこみの味を楽しめる。〈セラバー ラ・ランド〉では250種のワイン1500種のウイスキー、ブランデーなどピアノ弾き語りを聞きながら寛げる。

セラバー ラ・ランド

営業時間 7AM～1AM

★みよしや30周年を記念して「琳派」百図展

蒔絵風な華やかな光琳派の絵の新作書下しの着物約300点の展示会がみよしや主催で、神戸ポートピアホテルで4月14、15日開かれる。全国を巡回したあと日本伝統染色工芸保存協会が保存する。「30周年を記念して売るだけでなく、『作品』として鑑賞できる物の展示会をしたかった」と滝社長。老舗ならではの企画といえる。

神戸ポートピアホテル布引、北野、菊水の間 10AM～7PM

●ショップトピックス

ポートピア'81会場を紹介します。

★**菊水総本店**は、異人館通りで古来からの手焼せんべいを実演販売しています。ポートピアせんべい（14枚入500円、20枚入1000円）瓦まんじゅう（10個入700円、15個入1000円）などおみやげにどうぞ。

★**神戸風月堂**はポートピアランドに喫茶・レストラン、菓子売場、異人館通りに和・洋菓子、昔のお菓子の売り場を設けています。

★ドイツ菓子の**ユーハイム**は北ブロック国際2号館横サービスヤードに出店しています。

★**本高砂屋**はポートピアランドに和食・麺類・和菓子・きんつばのお店を。

★**ベル**は西ゲートの南側に出店。

★**田崎真珠**も南ブロックのポートライナー南公園駅北側に出店。

★**モロゾフ**センター街店が3月19日改装オープンしました。スイート・キッチンで作るお店仕立てのケーキ、デザート。新しい試みのラッピングコーナーなど話題豊富でステキなお店に生まれ変わりました。☎（078）391－8717

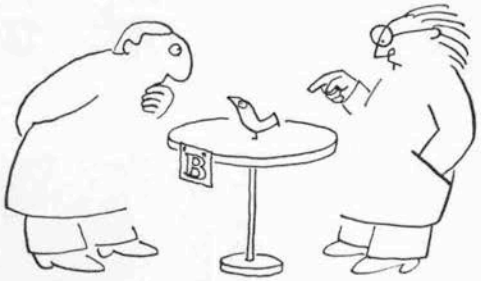
★元町1丁目の**二つ茶屋**がビル新築工事のため店舗・事務所・工場を移転しました。新住所は左記の通りです。（仮店舗・仮事務所）神戸市中央区元町通1丁目1☎078（331）0755～7（仮工場）神戸市中央区加納町2丁目12番☎078（222）6851 工事中よろしくお願いします。

★国鉄三ノ宮駅前に3月6日オープンしたプランタン三宮のB2Fのデリカ街は本物の美味とめぐり逢えるグルメのためのフロア。**オリエンタルホテル、ドンク、ユーハイム、コスモポリタン、神戸風月堂**など全22店が並んでいます。ショッピングの途中に、夕食の準備にぜひご利用下さい。

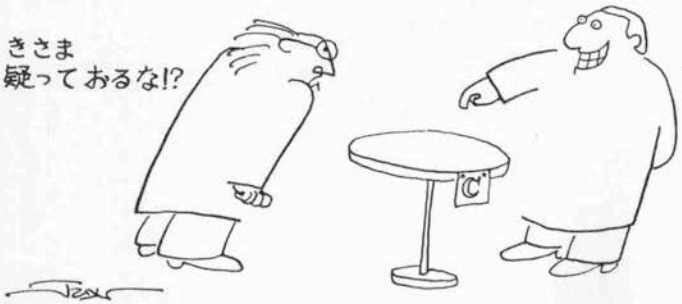
ふたたび プロフェッサーPの研究室

岡田　淳

このカゴの中には
透明にした鳥が
はいっておる

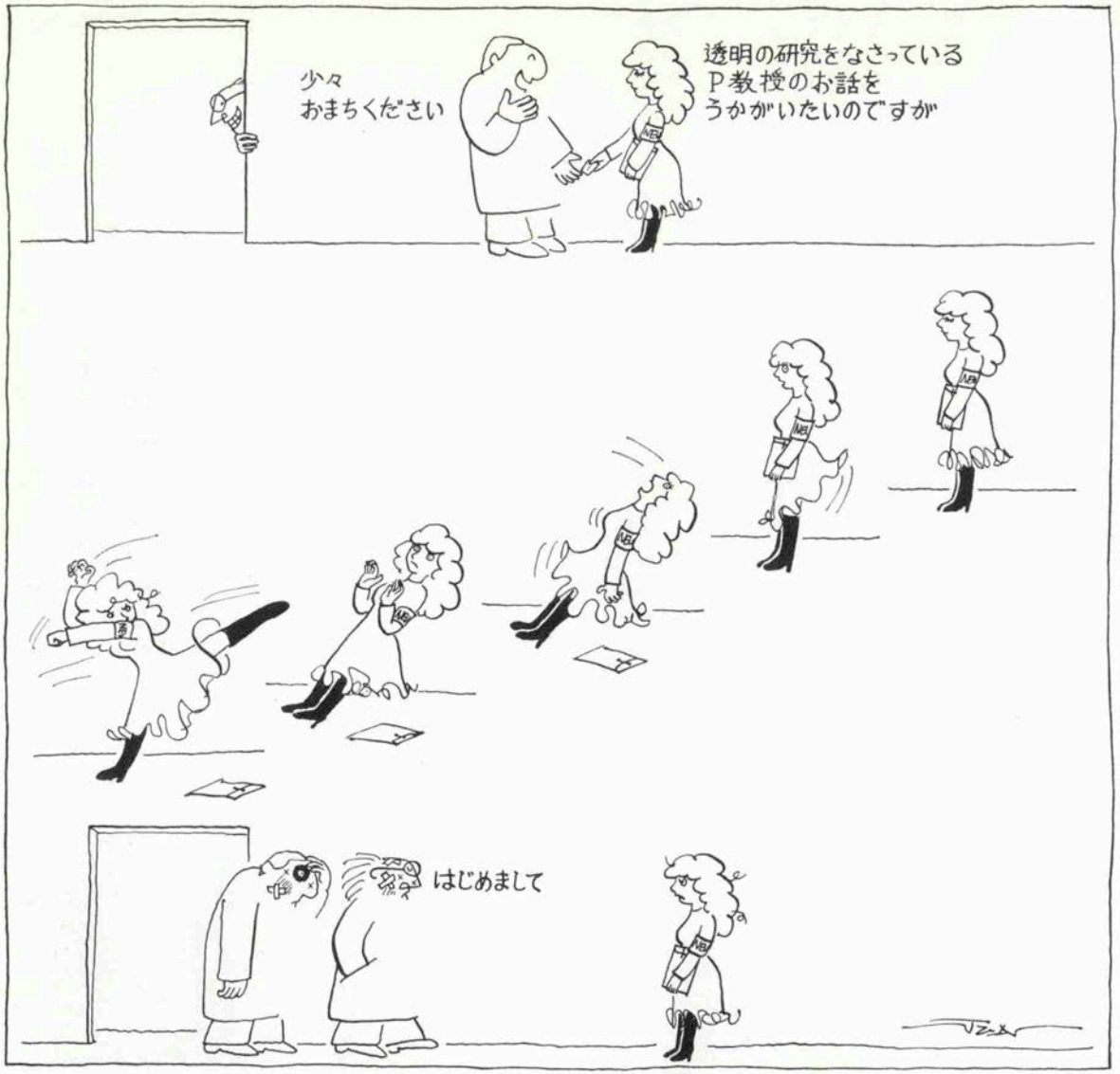


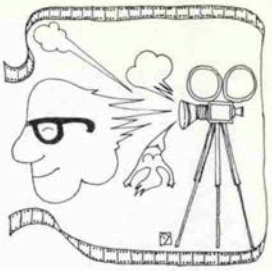
この鳥は
透明にしたカゴの中に
はいっておる



きさま
疑っておるな!?

もしかすると教授
このテーブルの上には
透明のカゴにはいった
透明の鳥が
いるのではありませんか？


少々
おまちください
透明の研究をなさっている
P教授のお話を
うかがいたいのですが
はじめまして



●ふらっしゅ●ばっく● ＜6＞

西ドイツ映画「ブリキの太鼓」
——このドイツ芸術

淀川　長治〈映画評論家〉

放火して逃げた男が、野原で一人で芋を焼いて食っていた女のまたぐらの中にかくれた。四枚のスカートをめくって男はかくれた。女は上手にかくしてやった。スカートの中がときどき動いた。女は腰をゆする。

二人の間に女の子が生れた。その名アグネス。彼女はドイツ人と結婚してオスカルという男の子を生んだ。しかしこの子はアグネスがポーランド人の男と関係して作った子である。

オスカル三才。母はブリキの太鼓をこの子がせがむので買ってやった。太鼓ばかり叩いているうちに地下の倉に落ちたときこの子は成長が止まる。五才になっても六才になっても三才のまま。父と母とこの子と母の男のポーランド人の四人でピクニック。

父はオスカルの父がポーランド人とは知っていない。海岸で漁夫が海から馬の首をひきあげた。これが鰻とりの方法。死んだ馬の首の目や鼻や口やくさった首の肉のあいだからニュルニュルと鰻がでてきた。みなはうまそうな鰻に舌なめずりした。オスカルの母は呕吐した。妊娠。オスカルの母の妊娠相手を祖母はポーランド人と見破った。オスカルの母は自殺。

話は明治三十二年（一八九九）から始ってここでは昭和十四年（一九三九）。ナチのポーランド襲撃。オスカルの実父は銃殺。表向きの父は十六才のマリアを後妻にした。このころオスカルも十六才。しかしからだは三才。毎晩マリアが抱いて寝る。オスカルはこのまま母の乳房をなめ、へそをなめ……もっと下もなめた。マリアが妊娠して男の子を生んだ。この子クルト。このときナチの勢いが崩れ、やがてドイツ敗戦前夜にオスカルの表向きの父のドイツ人はナチ党員だった。ソ連兵が来たときその党章をあわてて呑みこんで針がのどにひっかかって苦しむなかを射殺された。その父の死体の上にオスカルはブリキの太鼓を投げた。もう成長を止めないことにした。大人になろうと決心した。そのときに三才になっている弟のクルトが兄のオスカルに石を投げそれが頭にあたり気絶する。田舎から祖母がやってきて、そのオスカルを抱きしめ〝おまえは西へおゆき〟とカシュバイ人の血をひくオスカルにそう教えるのだった。

これが西ドイツとフランス合作映画「ブリキの太鼓」（一九七九年作、二時間二十二分）のあら筋。

フォルカー・シュレンドルフ監督作でカンヌでは「地獄の黙示録」と並んでグランプリを受けた。この西ドイツの監督作家のものはすでに八本あるが日本には一本も来ていない。ふしぎな映画タッチである。イゴール・ルターの色彩撮影。モーリス・ジャールの音楽。

西ドイツ代表作ギュンター・グラスの一九五九年作の小説。このあと「猫と鼠」「犬の年」を書きすべて舞台

はダンツィヒ（現ポーランド領グダニスク）。このグラスは別名をポルノグラスとあだ名があるくらいにきわどい描写が注目をひく作家。現在五十三才。

私はこの映画を見てあまりのドイツ色に圧倒された。この映画はドイツとフランスの合作だが、原作者と監督

'79年国際映画祭グランプリ・'80アカデミー賞外国語映画賞を受賞した「ブリキの太鼓」

の血に流れたドイツ魂というようなドイツ美術が全巻にあふれた。映画ではドイツからエルンスト・ルビッチュ（一八九二―一九四七）という有名なエロティック芸術監督が出ている。「パッション」「山猫リュシカ」アメリカに渡ってからの「結婚哲学」『陽気な巴里っ子』などがある。そのルビッチュのソフィスティケイション・エロティックを脱ぎ捨てたこのフォルカー・シュレンドルフにはドイツの「カリガリ博士」（一九一九）や「ドクトル・マブーゼ」（一九二二）に年代をさかのぼる古きドイツ感覚が再び呼び戻されドイツ芸術が戦火の中で生き残ったことを見た。ポルノを見るものとする幼稚さとちがい、これはポルノを感覚で掘りさげるポルノ芸術。ドイツの持つ表現主義、デカダンス、ダダイズム、それらその当時の明治大正文化の爛熟が一九七九年作という新しい時代を迎えてさらにするどくなっている。

オスカルが太鼓を叩くたびに人は死ぬ。三才のオスカルは母の秘密、わが生れの秘密を早くも嗅ぎわけ我が身の成長を止める。オスカルは十六才のまま母がひるひなか父とセックスをおこなっているのを父のうしろに立って見た。サーカスのこびと一座の女がオスカルと一夜寝る。オスカルはもう早春期。こびと一座のその女は四十女。しかし二人のせたけはベッドの中で同じ。まさに大人の男女の性交のさまを嗅ぐ。

オスカルを見事に演じたのは十二才のミュンヘンのオペラのドラム演奏勉強中のドイツ少年ダーヴィット・ベネント。バレエ・ダンサーのバリシニコフを思わせるませた顔をしている。このほかドイツ人の父にマリオ・アドルフ（私の最も好きな男優）。町のおもちゃ屋のユダヤ人にシャルル・アズナヴール。その他は初めて見る西ドイツ映画の俳優たちである。グロテスク美術ただそれのみには終ってはいない。戦争と人間。ポーランド人、ドイツ人、少数民族のカシュバイ人の住むダンツィヒその土地その土地を戦争地獄が通りすぎるその時代の時の流れが残酷にえぐられて描かれているのである。

哲学散歩

〈4〉

男のロマン

細川　董〈哲学者・文とえ〉

細川董・ほそかわただす　京都大学哲学科卒、元大阪樟蔭女子大学教授、FM大阪「夜の美術散歩」DJ、洋画家としても活躍中。目下、アンティーク人形に凝っている。

〈註〉語は哲。字体はすべて高田竹山監修「五体字類」による。

『男は生れ乍ら女に憧れ、女は女に成ることに憧れる』というのが、前回の私の結論である。

これを、アリストテレース風にいえば

『人間は生れ乍ら憧れることを欲する』

となり

デカルト風にいえば、

『われ憧れる故にわれ在り』となる。

憧れのない人生なんて在り得ないのだ。

これが、私の哲学である。

これが、私の見るところである。

俗に憧れを名付けて男のロマンという。

古代人の喜びは素朴だった。

彼女のあそこが、どうなっているか？

それを始めて知った喜び！

案外、あっさりかわいていたりして驚いたなんて古代ギリシャ人的な古くさい喜びだ。

こんな喜びを世界一いい男と自称するアリストテレース先生は

「人間は生れ乍ら知ることを欲する。特に、人間は見たがりだ！」

という、いい方をしているんだ。

「見るだけで満足せず人間は見て気に入ったものに触れたくなり、触れるばかりか所有したくなる」

とさすがソクラテスは更につっ込んだいい方をしている

人間は、知るだけでは満足出来るものではないのだ。

ソクラテスのいうのは実は、私のいう憧れそのものだ。

しかし、姿あるもの、形あるものは移ろい易いのが世の常というではないか！

女にせよ、ものにせよ、憧れの対象はあまりにもはかない。

すばらしい姿態の持主だと憧れた女も四十近くなり中年女と化しては姿態もくそもみるかげもない。

あゝ！

あわれ！

無惨！

あの可愛いかったおちょぼ口の周囲には早くも小じわが、出来ているではないか？

神のさずかりもの、奇蹟とさえ思えた細い足首にも脂肪がついて来たではないか？

われ等は何を基準に憧れたのであろうか？

憧れとはそんなにはかないものであったのか？

いや、

そんな事はない。
我々の憧れは永遠だ。
不滅なのだ！

しからば我々の憧れは、理想は、一体何だったのか？
プラトンはいっているではないか？
理想は永遠だと。
そうだ！
その通りなのだ！
時を越え、
場所を越え、
永遠に美しいもの。
それが理想だと！
　彼は、いう。
更にいう。永遠の美、それが美の原型だと。
美の原型。
それこそ美のイデアなんだと。
しからば美の原型とは何ぞや。
我々人間は生れ乍ら大脳皮質のサーキットに美の原型の記憶を持ち、この記憶を時々想起するのだと、プラトンはいう。
細川流にいえば、この美の原型こそ我々が出生時母の膣腔より出ずるときナメナメ体験した母体の記憶の浄化以外の何ものでもないのである。
我々は、この原型を想起させる如き美の蔭に出会う時美の原型を想起して我々は美の蔭影に憧がれるというのがプラトンのイデアの説だ。
　プラトンのいう理想の美、それは我々の大脳皮質のサーキットの神経細胞の中に、発火し続ける電波のファイアリングとしてのみ実在するのだ。

豪華さとくつろぎと本物の味

ハイセンスな神戸っ子の憩いのオアシス
気品ある雰囲気のなかでおくつろぎください

喫茶館
英國屋

三宮・神戸国際会館浜側
☎(078)251-4562
7:30AM—10:30PM　第3水曜日休み

〈姉妹店〉
喫茶館仏蘭西屋
三宮・フラワーロード(市役所前)　☎232-4643

★豪華チャーターヨットで州本へ★

クルージング&テニスツアー(船長付)

神戸須磨 ～州本～ 須磨
(所要時間3時間)

〈使用ヨット〉
ヤマハ37ケッチ型ヨット

〈主な装備〉
トイレ、シャワー、カラーTV、ステレオ、冷蔵庫
電話(どこにでもかけれます)
レンジ、水道(船内自炊可)
ベット(7名分)…個室有

〈日本最大のマリンレジャーセンター〉
サントピアマリーナ

〈主な設備〉
テニスコート22面
(ナイター設備つき)
プール、ホテル24室(120人)
貸ヨット、釣船、レストラン
サウナ、スポーツショップ

〈チャーター料金〉 1泊2日コース　¥ 150,000
定員10名
(須磨～州本間10名の往復運賃および7名までのヨット宿泊代を含む。テニス代・食事代は別途です。)

■申込み・問い合わせ先
ポートマリン　西宮市今津真砂町1－95
火曜定休　☎0798(41)6317

ぴっと・いん

カット／橘　昭三

★ドイツ風ワインケラー　ローテ・ローゼ

開店3年目だが、100種以上、2万本を超えるストックを備え、さながら、ドイツワイン愛好者のメッカと化した感もある。

扱うワインは全て中谷社長自ら現地に赴き、吟味の上直接輸入。だから、大半の銘柄は、日本ではここでしか買えない。ワイン通が長蛇の列を作る所以である一本100万円という極め付きもあるが、ま、無理せず楽しめるのはカビネットクラス。21種類あって値段も2800円から。〝幸せ〟の値段としては、決して高くないと思うが、いかが。

中央区北野町4丁目9－14
☎078－222－3200
午前10時～午後10時。

幸せ売場…？

★ザ・ワインバーが三宮にオープン

阪急西口のレインボープラザ5Fに4月23日からワイン&食事の店「ザ・ワインバー」がオープンする。

水がわりに飲むニューヨーク感覚のライフスタイルが、これからどんどん流行しそう……そんな夜を楽しめるのは神戸ではここだけ100種以上の世界のワインを揃え、肉料理をはじめ魚、ベジタブル、デザートなど80種の豊富な料理も楽しめる。

ワインは280円のグラスワインからボトル1、800円～3、000円ぐらいが中心。料理も500円から1、200円ぐらいと手頃な値段となっている。

☎332－1057

その名も"ザ・ワインバー"

★あのチャーリーの歌と中国家庭料理が楽しめる

神戸っ子ならずとも、チャーリーといえばご存知の方も多いだろう。

あの心に沁みるソウルフルな歌を一度でも聞いた人なら、きっと彼の魅力のとりこになってしまう。

熱演するチャーリー

そのチャーリーが念願の自分の店をオープンした。〝チャーリーズ〟がそれだ。

グリーンと白を基調にしたシックな店で、チャーリーの歌がふんだんに聞けるし、メニューも中国風おふくろの味（チャーリーのお母さんがつくってくれる）と大変ゴキゲンなのだ。

早速、行ってみよう。

八メニュー〉ふかヒレスープ八百円　ヤキソバ・ヤキメシ各六百円、中華丼六百円、八宝菜七百円、ラーメン五百円、水割五百円～、ボトルキープ六千円～、ソフトドリンクあり。
5・30PM～2・00AM　無休
中央区山本通2－2－1　北星ハイツ1F（中山手カトリック教会東50米山側）☎222－6909

●神戸うまいもんとドリンキング

コーヒー&レストラン　あすか

フラワロード（市役所前）
☎078（251）3231

白を基調にしたシャレたインテリアの〝あすか〟の地階はレストラン、一階は喫茶店。

喫茶店で特に力を入れているのは紅茶で品数が豊富だ。モーニングサービスも充実している。

レストランでは、三種類あるランチの評判がいい。夜はディナーコースがお奨め品だ。ステーキ、イタリアン、ロシア、ジャーマンとあり、それぞれメインディッシュにパラエティがある。

いらっしゃいませ

コーヒー・紅茶280円、モーニングセット380円、430円、ランチ650円、790円、980円、ディナー2、000円～3、500円、スパゲティ450円、ピーフピラフ600円、和風シーズンサラダ500円。喫茶店／7・30AM～10・00PM、レストラン／11・00AM～10・00PM　無休

ポケット ジャーナル

★ファッションフェアー'81はシンポジウムで幕開け

毎年秋に1カ月間、神戸市あげて企画されているファッションフェアーが、今年はポートピア博に合わせて4月18日から5月23日まで開かれる。

さて今年のファッションは

開会を兼ねての初日は〝神戸ファッションシンポジウム〟。渡部昇一上智大学教授、犬養智子、池田満寿夫、水野正夫、浜野安宏各氏が「街・ファッション」について講演をする。また最終日の恒例「神戸ファッションショー'81」は博覧会場内国際広場でKFA、KFC、真珠業界らの参加。今年は（神戸が似ているといわれている）南仏ファッションも登場する。

シンポジウム／4月18日1時30分開演　国際交流会館国際会議場メインホール　チケット1、500円
ファッションショー／5月23日2時6時30分
お問合せ／☎331―8181神戸市経済局商工課

★ロータリークラブが「ムッシュ神戸」を発表

国際ロータリークラブ第268地区では、記念事業としてMY KOBE MY SONGの歌詞を公募していた（本誌11月号既報）が、この程、藤田恵子さんの「ムッシュ神戸」が選ばれ、作詞・山口洋子、藤田恵子、作曲・小曽根実、編曲・前田憲男というスタッフで制作された。

神戸の青い空と海、明るい街のイメージを基調に若者の恋を描いたもので、歌は実力派のしばたはつみ。ポートピアでは、神戸発の歌を大いに流行させよう。

★音楽と舞踊のソサエティ 神戸ネオ・トロピカル協会5月にポートピア夜会

音楽と舞踊のソサエティとしてユニークな活躍を続ける日本ネオ・トロピカル協会（森美代子会長）の、神戸支部が4月に発足し、5月23日（土）に発足記念友情交歓ポートピア夜会が、午後6時半より神戸ポートピアホテルB1偕楽の間で開かれる。

右下は会長の森さん

テーマは〝ラ・メール〟と神戸らしく、服装はフォーマル。会費は2万円のディナーパーティ。東京から森会長を始め、服部良一、高木東六、田辺茂一さんら文化人も参加し、神戸側は田辺聖子、朝比奈隆、陳舜臣、筒井康隆さんらも参加予定。

★事務局〒650神戸市中央区山本通り2―13岩井ハイツ103号藤本ハルミ方☎242―5690

誕生日ありがとう運動

国際障害者年

今年は、国際障害者年です。国際連合が、世界中の障害者の人権の確保と福祉の向上を期するために定めたものです。

テーマは、「完全参加と平等」です。今年は、各種の国際会議やシンポジウムの開催、障害者への理解を深めるための啓発を目的とする展示会、映画会、各種セミナーなど多彩な行事が予定されています。

わが国でも、国や地方自治体や民間サイドで国際障害者年推進本部を作り、所期の目的達成に努めることになっています。わが神戸市でも結成されています。

だが、障害者のおかれている現実は、社会への「完全参加と平等」とはほど遠いものです。だから線香花火的な一時の催しや宣伝や単なる組織づくりで、実現できません。

そこでわたしたち一人ひとりが身近かなところで、自分は今、なにができるかを考え、地道な実践が要請されます。

本運動では、この国際障害者年にむけ、啓発用八ミリ映画「小さな輪・大きな輪」を製作中です。（詳細は、先号の本欄参照）

さらに、毎年夏に本運動が開く「市民の福祉講座」も、今年は、国際障害者年らしいものにと、目下企画中です。

みなさんも、国際障害年にふさわしい実践をおねがいいたします

誕生日ありがとう運動本部
651神戸市中央区御幸通八―一一六神戸国際会館一階の郵便局の隣
☎二五一―八一六一内線三一六

★遠くて近い国ブータン
友好協会が神戸に

ヒマラヤの麓の小さな国ブータン王国は、最近まで鎖国をしていて世界の秘境といわれた国。そこへ神戸の山男9人のパーティが外国人として始めてトレッキングに成功、日本ブータン友好協会（会長・長島隆神戸地下街副社長）設立のお土産を持って帰ってきた。

神戸の山男たち

ポートピアでは国際4号館に出展、日本と文化的な類似があるといわれているのにあまり親しくなかった国ブータンとのこれからの交流は楽しみだし、神戸に第1号友好協会ができたのも、さすがというか、何かのご縁というか……。

連絡先／神戸地下街（株）長島隆さん ☎391—4024

★庶民の暮らしの歩みを！
生活文化史料室が完成

阪神深江の駅前にミニ歴史博物館が誕生した。地域社会の歴史と生活文化の歩みを示す約一千点の民具・史料を展示して、名もなき庶民の暮らしの足跡を伺わせてくれる貴重な遺産だ。打出焼の陶磁器や大正時代の酒燗器、昔の子供の遊び道具や装身具など風雪を感じさせるものばかり。土、日曜に一般公開、入室無料

東灘区深江本町3—5—7神戸・深江会館内 ☎411—0475

田辺館長と大田垣さんの手でテープカット

★神戸ポートピアホテルの屋上に無人カメラを設置

朝日放送とサンテレビジョンが、このほど共同開発共同利用という形で神戸ポートピアホテルの屋上にリモートコントロール可能な無人サテライトカメラを設置、3月1日から稼働している。博覧会場をはじめ未来海上都市に向けて発展するミナト神戸の日々の新しい顔を紹介するのに有力な武器となる。

何が見えるかな？

レギュラー番組での登場は「おはよう朝日です」「おはようポートピア」などで、さらに地域社会に密着した情報がうつしだされることが期待される。

★画集シルクロード「天竺への道」を出版

中村百合子さん

日本美術家連盟会員で近年10年余り、中東、アラブ、ヨーロッパなどで「砂に生きる人間群」をテーマに画筆を振るってきた中村百合子さんが、画集シルクロード「天竺への道」を出版した。これは、1979年に中国シンチャンウイグル（新疆維吾尔）自治区及びインドへ陳舜臣氏と共に取材旅行に出かけ、現地で砂塵にまみれて制作した約160点の作品の中から約100余点を編集したもの。砂漠と山岳の辺境の地、きびしい自然環境の中における人々の生活を素描と文で紹介し、はるかなるシルクロードのロマンがあふれている。

画集出版記念パーティは3月5日東洋ホテル葵の間で開かれた。

B4変型判／頒布価格8500円
尼崎市武庫之荘8丁目11—21 中村百合子画集出版実行委員会

美術ガイド

★県立近代美術館
ポートピア'81記念美術展
中国戦国時代の雄「中山王国文物展——2300年前の幻の文明」 5/12～6/28

★西宮大谷記念美術館
マチスとその周辺展 4/10～5/5

★さんちか広場
新日本華道展 4/2～4/7
東洋医学鍼灸展 4/9～4/14
神港農園フラワーフェスティバル 4/16～4/20
元町文化学院祭 4/22～4/26
サンストア孟の市 4/27～5/1

★ギャラリーさんちか
グループ潤絵画展 4/2～4/7
ハッセルブラード写真展 4/8～4/13
元川嘉津美画伯個展 4/14～4/19
一陽会絵画展 4/14～4/25
上山器章写真展 4/20～5/1

★KCCアートギャラリー
藤飯治平水彩素描展 4/6～4/15
新井豊個展 4/20～4/30

★エンバ中国近代美術館
第3回エンバ賞美術展 3/4～4/20

★シティギャラリー
神野立生銅版画展 4/1～4/12
★大丸神戸店美術画廊
藤原恭助新作陶芸展 4/2～4/7
春虹会展 4/9～4/14
安東成空記念展 4/16～4/21
奥谷博・柴田米三・松樹路人三華会展 4/23～4/28

★そごう神戸店美術画廊
佐野弘利油絵新作展 4/2～4/8
元川嘉津美油絵彩展 4/17～4/22
第3回丹波陶友会展 4/24～4/29

★三越ギャラリー
現代巨匠絵画展 3/31～4/13
現代日本画巨匠展 4/14～4/27

★大人も子供も楽しんだ人形ファンタジックショー

全国で腹話術の指導を行い、千人以上の研究生をもつ竹村まことさんが、2月22日KCCホールで〝人形ファンタジックショー〟を開いた。

ユーモラスな掛け合い

腹話術と人形劇とがドッキングして普通の人形劇とはひと味ちがったユニークでファンタジックな人形の世界が繰り広げられた。竹村さんが一人で等身大の人形を扱う場面では「あれ、本当の人間？」ということもたちの驚いた声も——。

光のファンタジー、人形立体落語「お化け長屋」、腹話術バラエティと3部構成の愉快なショーを、こどももおとなも楽しんでいた。

★あすなろ腹話術研究会
神戸市長田区北町2丁目1山陽長田ビル6F ☎577—1184

★ネコ好きたちのにゃん友会神戸支部

世の中には熱狂的ネコ好き人種というのがいるが、ネコ好き大集合のにゃん友会神戸支部が誕生した。ネコを保護し、ネコ問題（捨て猫防止だとか、縁談、美容、避妊など）の窓口になり、ニャン報を発行するなどネコづくし。

会員になるとネコのキーホルダーや切手がもらえる実際に飼っていなくても入会できるとのこと

友の会ができて僕も嬉しいよ

神戸支部長さんはミルキーキャットという喫茶店のマスター、この店もねこづくしの可愛い店である。

★にゃん友会 連絡先／東灘区岡本1 ☎254—3370「ミルキーキャット」

花時計 夏秋冬

街の話題を拾う

話題☆PART∧Ⅰ∨

何んといってもいま話題はポートピア'81に集中する、そしてまだ開幕前だが口うるさい巷の雀「もう主催者の魂胆は判っとるワ、三宮から会場まで歩かす気やで」というのだ。これは当らずといえども遠からず。どう考えても予定より人が多くなれば、ポートライナーも橋もお手上げだろう。それならいっそのことジョギングばやりのこの頃である。

さっさとポートピア'81を歩く会など作って気勢をあげたらどうだろう。

話題☆PART∧Ⅱ∨

お気づきの方も多いと思うが最近、フラワー・ロードにランタンが並んでいる。ところがまるっきり評判が悪い「折角の彫刻の道なのにどうしてあんなランタンを並べたんやろナ。青信号と間違いそうや」そして「いい加減なデザイン」とかついには「神戸の恥や、早よ取りのぞけ」とは厳しい。

話題☆PART∧Ⅲ∨

日本一やなあ。と話題を集めているのがオープンした神戸ポートピアホテル。早速31階のアランシャペルで食事をし大満足

これも「たいしたもんやで、景色は夕暮れ時の山側が一番ええナ、味もいいし、値段も比較的安い」と巷の雀。当ってる

KOBE POST

★兵庫県生活文化部長の**山本敏雄**さんが、兵庫県民会館3Fで3月27日～29日まで〝小さな花描展〟を開き、絵筆をとった山本部長と共に集う会が、28日の午後から県民会館12Fで開かれました。〒551—11神戸市北区鈴蘭台南町1ノ2ノ47

★ピアニストの**伊藤ルミ**さんが、川崎製鉄のサラリーマン氏と東京で挙式。新居は六甲に。ルミちゃんおめでとう！

★ピアニスト**関晴子**さんが、ご主人の転勤で3月末に転居。新住所は東京都世田谷区経堂町3丁目35ノ5

★二紀会の洋画家**高崎研一郎**さんがヨーロッパの旅へご夫婦で出発2カ月間の旅から4月27日帰国。

★毎日放送の**庄野至**さんが制作局長に就任され、開局30周年にあたって番組の充実をとご挨拶。

★サンケイ新聞阪神支局長の**道原勇司**さんが、大阪新聞社の報道部長として栄転されました。後任は**森下武**支局長です。

★4月15日～20日に、さんちか広場で、**J・F・T・D**と**兵庫県農園園芸協同組合**が、身体障害者に寄せて〝グリーン&フラワー・フェスティバル〟を「人間の一生と花の関り合い」「暮しのグリーン」をテーマに開く。チャリティ即売会も同時に。

★洋画家の**石阪春生**さんが個展を6月1日～13日に株式会社梅田画廊が経営する梅田近代美術館で開かれます。

★3月8日シャンソンの**上平田裕子**さんの後援会設立パーティが北野坂の〝CROSS〟で開かれました。後援会長／**長島隆**、顧問／**小笠原堯**と決定。事務局はシャンゼリゼ ☎391—4860

占い入門

今年の南と北は大凶方！

加藤　大景
〈気学開運学会会長〉

――南北が大凶方ということですが、その前に気学とは何ですか。

加藤　運勢学の一つなんです。生年月日で人の運勢性格を判断し、その人にとって一番よい方位と時期を求めて運勢を開拓して才能を発揮させようとするものです。

――方位で運がよくなりますか。

加藤　もちろん運勢というものは親からの遺伝、育った環境、受けた教育などにより大きな影響を受けますが、方位と時期が悪ければどんなに努力しても失敗しますね

――その失敗する方位というのが今年は南と北というわけですか。

加藤　そう、更に今年は東も凶ですね。これらの方位へ移転、嫁入、会社設立などすると交通事故、裁判問題、詐欺、火災などが原因で失敗したり悪くすると一命にもかかわりますよ。これは私が発行してる月刊誌「気論」の新年号で今年一年の運勢として書いています。今年の南北と東には十分注意して時期を待つことですね。

――反対に吉方というのは。

加藤　人にもよりますが、まず東南方位でしょう。

――どこからみての東南ですか。

加藤　個人的なことは自宅からみて会社などのことなら本社から方位をみればいいでしょう。例えば先月二十日から始まっている神戸博の場合は宮崎市長が会長ですから市役所から方位をみます。するとポートアイランドはちょうど東南の吉方位となってます。また市長は明治四十四年生まれの人ですから、運勢も今年からよくなりますね。神戸博の成果が楽しみです

――この気学では個人の運勢とか方位をみることが主なんですか。

加藤　いいえ、勿論私の運勢学講習会ではまず基本運と性格から教えていますが、上級では人事管理、事業拡張の方法など実社会で活用できることを教えてます。いかに能力を引き出して活用し、運を開いてゆくかを教えるのがこの気学です。運に流されてはだめです。

――少し運勢学というものがわかったような気がします。つまりは運命とは決まったものではなく、良くも悪くも自分で変えることができるということですか。

加藤　その通り。運命とは与えられた命を運ぶと書くでしょう。気学を知って上手に運ぶことですね

――今日は方位と運勢についてどうもありがとうございました。

運勢学講座

新年度生徒募集中

★神戸教室　高速長田南出口スグ

◆初等科　月2回　第1，3金曜日
◆中等科　月2回　第1，3火曜日
◆高等科　月2回　第2，4火曜日
◆研究科　月1回　第2金曜日

いずれのクラスも
午後1時30分～3時30分

★倉敷教室　倉敷駅前　三越6階

◆初等科　月2回　第1，3月曜日
◆研究科　月2回　第1，3月曜日

正午より研究科　2時より初等科

★

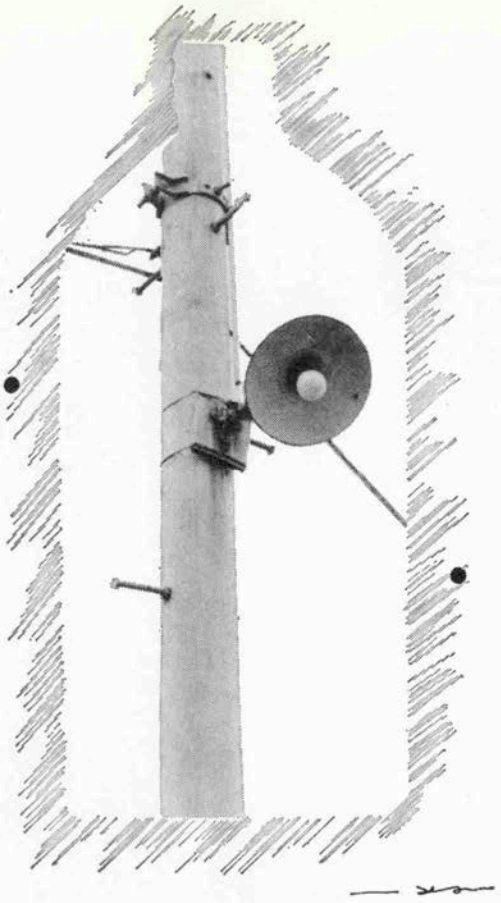
毎月の運勢がわかる
月刊「気論」発行
一部　350円
年間 4,500円(送料共)
下記までお申し込み下さい。

運勢(方位・家相)鑑定
気学開運学会
茨木市西中条町14-21-306
電話(0726)26-6424

□才5回神戸女流文学賞受賞作品〈原題「痕跡」〉

流れる素描

久保田 匡子
絵／田中 一好



〈4〉

動員時代の三ケ月ばかりの短い交友関係でしかなかった和男はともかく、女学校へ入学してからの友だちだった弘子の、予想外な姿が今になって哀しく胸を締めつける。あの日、彼女は一緒に夕食をと準備もしていたのに、帰ると言う弘子を強いて止めなかった。二十六年ぶりにわざわざ訪ねてくれた友に対して、おざなりなあしらいをしたものだと悔やまれてならない。

彼女はふたたび受話器を取った。弾みのついたボールのように、外に向かった心は止まらなかった。

「嬉しいわァ、とうとう来てくれるのねえ」

すでに聞き慣れている鼻にかかった甘い声で、弘子はこまごまと道順を教えた。その技巧的な間のびした口調は、ふしぎに範子の気持を鎮める作用をした。

彼女は服装よりも顔の化粧に時間を費やして外出の仕度を整えた。勤めを持っていた時分の姉がくれた化粧品

で、フランス製のそれは、三種類の油性の固型ファンデーションの組み合わせである。順序に従って塗り重ねると、火傷の引きつった跡は三層の厚い膜の下に徐々に消えていった。その上に眉墨、マスカラ、アイシャドー、口紅と熱心に塗っていった。

表の家の勝手口から消毒液の臭いがしている。範子は息をつめて扉を開き、声を上げて、

「ちょっと出掛けるわ」

と奥の方へ言った。掌で口を被いながらしばらく待つと、

「ハイ、ハイ、」

とけだるそうな姉の返辞があった。

姉は今日も大車輪に動き回って疲れているのだろうと、彼女は姿を見せぬ姉にこだわる気持を抑えた。それにしても姉の綺麗好きは常軌を逸しているとつくづく考えた。

明るい戸外に出ると、範子は胸を反らして深く息を吸い込んだ。瘴気のごとく纏いつくクレゾールの臭いは、薄い埃の舞い立つ街の大気の中に四散していった。

地下鉄を乗り継いで弘子の店に行く道すがら、彼女は姉のことを考え続けていた。

姉について今日まで深く考えなかったというのではないが、考えるというよりも肌で強く感じ取っていたという方が近い。

両親が死んで一人暮らしをするようになってから、姉の潔癖性は気狂いじみてきたと認めざるを得なかった。廊下や板敷や畳、柱までも石けん液で拭くだけでは納まらず、クレゾールをしばしば使ってその後をふたたび拭う。姉は終日を掃除と洗濯、片づけものをすることに費やしている。体を夢中で動かすことで孤独を埋めているのだろう、と身贔屓を承知で今まで登に弁護してきた。

しかし、範子には姉を好意的に受けとめる心ばかりがあるのではなかった。

姉は生来、骨身は惜しまない質で、勝ち気な気性が父に気に入られていた。二人は傍目にもよくうまが合っていて、父の死ぬ日までお互いの気心がわからなかった範子の場合と正反対であった。病身で陰気な母を嫌っていた父は、主だった事柄はすべて姉に相談し、母の家庭内の権威は影が薄かった。ちゃっかりと財産わけをしてもらった兄の足が遠のくにつれ、姉は家の実権を殆ど手中に入れていた。

父の遺産がどれだけのものか範子は知らなかった。あとに残った母と姉が一言も生活の不安を洩らさないこと、食事を含めてかなり余裕のある生計ぶりが変わらないこと、父の葬式が金のかかった大層なものであったことなどで推し測る他はなかった。女遊びの多かった父を恨んでいた母は、そういった問題を起こさない登を信頼していたが、反面、範子を羨んでいないこともなかった。

「あんたは頼りにする人がいるもの」陰微な母の言葉が、動かぬ一家の意見として範子に突きつけられていた。一番親身な母がはっきりと遺産わけを拒んだ以上、範子は誰を相手にも訴える気はしなかった。当然の権利（戦後の範子がしてもらった嫁入り支度などは、戦前から用意を怠らず、そっくり疎開して残っている姉のそれとは、比較にならない貧相なものだった）を主張しない理由を、範子は自身に問うてみた。それは頬の傷痕と無関係とは思えなかった。長い間の傷との悪戦苦闘は、自分でも思わぬ深い落莫をもたらせていたのだった。

医院の皮膚科をかけめぐった日々が昨日のごとく甦ってくる。ある医者には手遅れだといわれ、ある医者には皮膚の移植である程度なおるが、と示された治療金額に心を悩ませた。健康保険制度のない会社で働いていた範子の貯金では不可能な金額で、父に頼む以外になかった。いつもの如く父はすぐには返辞せずに黙っていた。「手遅れかもしれない手術をして痛い目をすることもないだろう。それに完全になおるという保証はないのだし」父の代弁者のような顔をして兄は言った。「そうじゃ、その通りじゃ」父はすぐさま賛成した。その父に抱いたむ

なしい苛立ちや、憎悪から解き放たれるまでの苦い戦いがあった。一見思いやりを装った兄の、自身の結婚を間近に控えた打算を読みとった憤りからも自由にならねばならなかった。それにもまして、傷など大した問題でないと居直りながら、遂に居直りきれないでいる自身の弱さとの戦いの連続の日々であった。

その過ぎ去った日々への嫌悪が、予想される実家とのいわば現実的な戦いを避けたく思うのだった。この現実的な——人間の欲のかたまりあい以外の何者でもない争いを、ふたたび味わいたくはなかった。

花嫁修業を遅疑なくやり終えた姉は、自分と違って現実への対応がたやすく出来るのであろう。父も母も身辺から去って、いよいよ緊密になっていく現実へのかかわり……汚れは拡大されて穢さを剝き出しにし、物の乱雑さはそのまま姉の精神を混乱に陥れる……子供もいる普通の家庭に過ぎない範子の家のたたずまいも、姉の目には猥雑な、塵とがらくたの散乱した汚い小屋に映るのではなかろうか？裏庭伝いによくやって来た母と較べて、用事以外には訪れない姉の、時折り、裏の家に注がれる困惑したような、胡散臭い視線を今更に思い返した。しかし、姉のそうした疳性も、範子たちに直接に向けられたことはなかったから、関係ないものだといえた。

だが、登は彼女と同じ理解は持てないようだった。自分の家を掃除するのは勝手だが、クレゾールの臭いは不法な闖入者だと怒るのだ。

「あの人は以前から、われわれが裏に住むのが気に入らんのだ」

と、日頃範子に憤懣をぶちまけた。

それはまだ下の子供が幼かった時分、「あんたのおうちがなかったら、もっとたくさん木を繁らせるのにね」と姉が子供に語ったのを知って以来だった。姉は範子の子供たちを可愛がっていた。そのやり方は手紙を届けたり、届けなかったりするに似た気紛れさはあったが、子供を持たない女の濃い情愛が見られた。童話か何かを語り聞かせている内に木の話になった、裏庭の見すぼらしさを姉らしい率直さで口にした言葉であるに相違なかった。潔癖なくせに姉のそうした粗雑なところは父とそっくりだった。子供にしても告げ口をするというのではなく、単純に木の話を報告したのだ。しかし、登の怒りは容易に解けなかった。過敏でこだわり易い登と、時たま思い切った暴言は吐いても、内攻的でぎこちない姉とは合わないのが道理だと範子は考えるが、表面は何かにつけて妹婿を立てている姉に対して、あからさまな不機嫌で応えている登を、大人気ないと思わずにはいられなかった。

彼は遂にクレゾールで厭がらせをしている、と言い出して範子を困らせたが、彼女自身も時ならず漂ってくるクレゾールの臭いには参っていた。登が嗅ぐのは大抵昼の間の残った臭いだったが、一日中家にいる彼女にはたまらない時があった。止めてほしいと言うには言ったが、これ以上の殺菌方法は他にはないのだからあなたの所でも使えばいいのに、と、何故厭がるのか怪訝な面持ちである。それ以上彼女は、姉の大切な気晴らしの一つであろうクレゾール使用を取り上げる気にはなれなかったしその方法も見当らない。それに毎日使っているというのでもなかった。

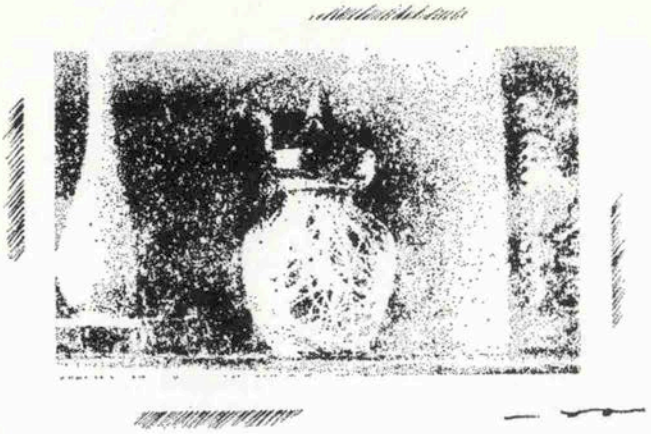
自然に姉の側に立ってしまう自分の態度は、登には不愉快なものだろうと範子は思う。けれども、一緒になって姉を悪く言い合っていた頃は、本当に姉を悪いと思ってはいなかったと気づくのだ。最近、範子は相続問題に一言も触れようとはしない姉や、うやむやにしたまま亡くなった父を考える日が多くなった。

登が敏感に感じたように、姉は無心でばかり通路を塞いでいるのではないだろう。それを認めたうえで彼女は姉を庇う。登の耐え性のなさにやりきれなくて庇う。姉を大切に思うよりも登を大切に思う心が強くて庇う。

庭木の時も彼女は登に劣らず不愉快な気分を味わったのが事実だった。独善で偏愛に充ちた父や、狡猾で陰に

回って糸を引いているような兄の姿が、姉の背後に見えるようで口惜しく悲しかった。しかし、子供を可愛がる姉の心は疑えなかった。誰が幼い無垢な心に、大人の欲深い確執を吹き込む者がいよう……　と範子は思い直したのだった。

彼女は登の姉への憤りを、その場限りの単純なものに捉えていなかった。ふつふつとたぎるような彼の憤懣は姉だけでなく、自分の実家そのものを相手にしているのではないかと思う時がある。彼は範子の相続問題に触れたことはなかった。親から受け継いだ財産は何一つとてない彼としては当然の態度かも知れないが、範子はそれを登の徳と見做していた。気難しく扱い難い夫ではあるけれども、そうした潔い性格は得難く好ましく思うのだった。彼女は傷痕のある自分を選んだ登を信じなければならないと考えた。



登は何故姉を、そうして実体は消えてしまった自分の実家への怒りを解こうとしないのか——。

家などはかなく消え去る幻ではないか。それは登が骨身にしみて体験した事実ではなかろうか。範子はぎりぎり崖ぶちに立つに似た緊張を覚えた。足下に深く落ち込む谷を覗く恐怖はしかし、しびれるような快感にも通じていた。それは登だけでなく当の範子が体得した真実ではないか……　けれども忽ち、二人の子供への断ち難い愛着がエコーとなって彼女を呼び返し、そのつきつめた思念を吹き払ってしまった。

闇を開く地下鉄の電光はチカチカと眩しかった。見知らぬ人々と体を寄せ合って、錯綜した騒音のなだれと、車体の緩やかな動揺に身をまかせていると、次第に白茶けた空しさにくるまれてくる。このままとどまる停留所も知らずに、どこまでも運ばれて行くような倦怠を感じ出した。

弘子の店に辿りつくまでに、範子はすっかり憂鬱になってしまっていた。

窓枠や扉の木製の部分を、茶褐色のニスで塗ったよく見かける喫茶店風の構えだった。〝コンゴ〟と木彫りの凝った飾看板が突き出ている。想像したよりも上品な店構えに、範子は晴れぬ気分も手伝ってしばらく佇んで眺めていた。

思いきって扉を押すと、奥に長い長方形の店内に白いカウンターが延び、その中に女の子が二人、所在なさそうに立っているのが目にはいった。

「いらっしゃいませ」

二人は声を揃え、職業的な愛嬌を感じさせる笑顔で彼女を迎えた。弘子から聞いていたらしく一人が奥の方へ、

「ママさーん——いらっしゃったわ」

と叫ぶと、あとの一人がすかさず、

「すぐに参りますから、どうぞ」

と椅子を目で示して勧める。

丸い固い椅子にぎこちなく腰を下ろした範子は、正面の何段もの棚をぎっしりと埋めたボトルや、そのすべての首から垂れ下げられた名札の金鎖が、こけおどしめいてキラキラときらめく様や、露出狂のように、胸を深くくった服を着て、ゆるんだ笑いを浮かべているマリリンモンローの大きな写真を、もの珍しそうに眺め廻した。その彼女を若い二人は、珍奇な動物を見るようにして観察していた。

奥との間仕切りになっている玉暖簾を掻き分けて弘子が首を出した。

「お店では寛いで話せないわねえ。他ならぬあなたですものねえ、わたしの部屋へ行きましょ」

弘子について狭い階段を上り、部屋に足を踏み入れかけた範子は、いきなり視野に飛び入ってきた真紅の布団にぎくっとなった。六帖ほどの室内いっぱいに盛りあがった感じで敷いてある夜具の、赤い化繊の布地を被う金糸の縫い取りが、場違いの華やかさで秘密めいた光を放っている。

「寝てたの？」

「まさか。まっ昼間から寝るわけがないじゃないの。こう見えても朝は人並みに早いのよ。昔の通りよ」

支配人がいつ見えてもいいように床の準備はしてあるのだと、何気ない風に弘子は言い、これも真紅のすべすべして光沢のある座布団を、端に残った窮屈な空間に並べて置いた。

支配人というのは老人で、横にならなければ休息出来ないの、と尋ねかけて範子はあわてて口を閉ざした。自分の問いがいかにも見えすいていて弘子に一笑に付されそうだった。どうしてこのような部屋に通したりするのだろうか、と彼女は弘子の気持を計りかねていた。

ぽんと事実を突きつけて弘子はそれで了解を取ったつもりなのか。が、二人の間にはそんな義務はまだなかった。単に無神経と考えるべきだろうか。それともこれは大した事ではないと言っているのだろうか。弘子が悪びれず落ち着いているのはそのせいか。

真白いカバーのかかった寝心地のよさそうな枕の先に、盆にのせたガラスの水差しが用意されてあるのを見ながら、範子は自然と体が固くなるのを覚えていた。

「あなたったらすてきじゃないの、見違えたわよ。どうしておうちでもそうしないのよ」

少しの間、範子はぼんやりと相手の言葉を聞き流していて、それが化粧をさしているのだとようやく気がついた。

「こないだお伺いした時、正直なところびっくりしちゃったわよ。だってえ、あなたったらすっかり様味噌くさくなってしまって……　ご主人も見直されると思うわよきっと」

派手な手振りを交じえて喋り出した弘子を見て、いけないと彼女は思った。また弘子一人に喋らせてしまいそうだった。

「いいお店ね。すっきりとしてて……」

話を逸らすためだったが嘘ではなかった。が、お世辞のやり取りをしている気がしないでもなかった。

「女の子たちも愛想がいいし……　流行っているんでしょ」

どこかおずおずとして範子は言った。家に籠っているだけの自分に引きかえ、一軒の店を取り仕切っている弘子に気圧される思いがする。

弘子は範子の思惑など頓着しない風にすぐに乗ってきた。

「そう見える？　だったら嬉しいわあ。第一印象で流行っていると見られたらそれだけでもう成功なのよ。さびれた店と見られたらもう駄目！　でも内実は苦しいのよとても……　あの子たちだって目を離したら何をするかわかりゃしないしね。それに支配人が厳しい几帳面な人なのよ。信用してまかせられているだけにしんどいのよ。本当よ。見かけほどいいことはないのよ」　〈つづく〉

えっ、すぱげてぃが
お嫌い？
そんなこと信じられない！
ぜひ当店へいらして下さい。
きっと、
お好きになりますよ。

東京・渋谷　スパゲティ専門店

Spaghetti 壁の穴

三宮店／神戸市中央区三宮町１－５　サンロイヤル神戸10Ｆ（さんプラザ）
ＴＥＬ 078(332)4551　営業時間11AM～９PM
第１・３月曜休み